

家畜導入事業の終了(一部終了)報告及び納付承認申請書

年 月 日
番 号

熊本県知事 様

所在地
事業主体名

家畜導入事業について、下記のとおり基金の業務を終了(一部終了)させることとしたので、報告します。

なお、この業務終了(一部終了)に伴い金 円を熊本県に納付したいので、承認されたく併せて申請します。

記

1 基金業務を終了(一部終了)する基金造成主体名及び納付金額

基金造成主体名	終了(一部終了)年月日	県納付金額
		円
		円
		円
計		円

2 基金造成実績及び基金残額

基金造成主体名	対象事業名	基金造成年度	期首基金額(a)	基金造成額			取崩額(e)	基金利子(f)	その他繰入額(g)	期末基金額(i)=(a)+(d)-(e)+(f)+(g)
				県費(b)	その他(c)	計(d)=(b)+(c)				
計										

(注)1 本表は基金造成主体ごとに作成すること。

2 取崩額(f)は、家畜導入実施に係る助成額とし、3の導入に伴う基金からの取崩額と一致するものであること。

3 基金繰入額(g)は、特別導入における貸付期間満了譲渡等で基金に繰り入れた額とし、4の基金への繰入額と一致するものであること。

4 その他繰入額(i)は、基金繰入額(g)、基金利子(h)以外の繰入額を記入すること。

3 家畜導入実績

(単位:頭、円)

基金造成主体名	対象事業名	対象事業主体名	導入年度	導入頭数				導入に伴う基金からの取崩額	備考
				品種名	育成牛	成牛	計		
計									

(注)1 本表は基金造成主体ごとに作成すること。

2 導入に伴う基金からの取崩額は2の取崩額(f)と一致するものであること。

4 納付金額計算書

基金造成実施主体名	対象事業名	期末基金残高(a)	県補助金額(b)	基金造成額(c)	県納付金額(a)×(b)÷(c)
小計					
小計					
計					

(注) 期末基金残高(a)は2の期末基金額(i)の欄、県補助金額は2の基金造成額の県費(b)の欄、基金造成額は基金造成額の計(d)の欄の額であること。

ただし、一部終了の場合にあつては、期末基金残額(a)は、当該対象額を記入すること。

別記第2号様式

(1) 総括表

事業区分	補助金	備考
1. 家畜導入事業 事業費	円	
合計		

記

I 事業の目的

例) 補助に要する経費を予め基金造成し、年間を通して計画的な牛の導入を促進する。

II 事業の内容及び計画(実績) : 別紙のとおり

別記第2号様式

(2) 事業の内容及び計画（又は実績）

市町村名	事業主体名	事業主体の所在地	事業名	事業内容	事業量		受益戸数	当該年度導入頭数	完了年月日	事業費	負担区分			備考	
				(事業区分、品種名、育成雌牛、成雌牛の別)	単価	基金造成頭数					補助事業等に要する(した)経費		市町村費		その他
											県費	計			
					円	頭	戸			円	円			円	
計										0	0	0	0	0	

- 1 事業名の欄には家畜導入事業と記入すること。
- 2 事業内容の欄には、事業区分（肉用牛導入、高品質乳用牛導入の別）、品種（黒毛和種、褐毛和種、ホルスタイン種等の別）、育成雌牛、成雌牛の別を記入すること。
- 3 受益戸数の欄は、本事業により家畜を導入する農家戸数を記入すること。

別記第2号様式

(3) 導入計画（又は実績）

事業主体名： _____

区分	事業実施市町村名	導入対象者氏名	導入頭数				導入計画(又は実績)				飼養計画					牛1頭当たり飼料作物供給地面積		備考			
			品種名	育成牛	成牛	計	当該年度		翌年度	導入前	導入後	初年度末	二年度末	三年度末	四年度末	五年度末	現状		計画		
							上半期	下半期	計											上半期	
	計（又は平均）																				

(注)

- 1 区分の欄は、肉用牛導入、高品質乳用牛導入の別を記入すること。
- 2 事業実施市町村名の欄は、対象事業主体が同一市町村の区域である場合は当該市町村名を、2市町村以上の広域の区域である場合は事業実施地域のすべての市町村名を記入すること。
- 3 導入対象者氏名の欄は、導入対象予定者氏名及び計を記入すること。
- 4 飼養計画、牛1頭当たり飼料作物供給地面積の欄は、導入対象予定者の畜産経営計画に基づき記入すること。
- 5 乳用雌牛の導入計画にあつては、
 - a 飼養計画は乳用成雌牛について導入前、導入後、初年度末、三年度末について記入すること、
 - b 牛1頭当たり飼料作物供給地面積については乳用成雌について記入すること。
 - c 事業実施方針（牛群整備、淘汰基準、その他）を添付すること
- 6 肉用繁殖雌牛の導入計画にあつては、
 - a 牛1頭当たり飼料作物供給地面積については肉用繁殖雌について記入すること。

別記第2号様式

(4) 基金造成計画（又は実績）

基金造成主体名：

(単位：円)

対象事業名	基金（資金）額				対象事業に要する（した）経費				期末基金（資金）額 I=D-E-F	備考
	期首基金（資金）額 A	基金（資金）造成額 B	繰入額 C	計 D=A+B+C	当該年度の第1及び第2四半期 E	当該年度の第3及び第4四半期 F	次年度の第1及び第2四半期 G	計 H=E+F+G		
計										

(注)

- 1 対象事業名の欄は、肉用牛導入、高品質乳用牛導入の別を記入すること。
- 2 肉用牛導入、高品質乳用牛導入にあつては、
 - a 基金造成額（B）は、別記様式2の（1）の事業費の欄の数値と一致させること。繰入額（C）は記入する必要はない。
 - b 対象事業に要する経費は、別記様式2の（2）の導入計画書の導入計画の欄の頭数の家畜導入に要する額とすること。
 - c 対象事業に要する経費の次年度の第1及び第2四半期の欄は、該当しない場合は「-」を記入すること。
 - d 基金（資金）額の計（D）は、対象事業に要する経費の計（H）以内とし、期末基金（資金）額（I）は次年度の第1及び第2四半期の対象事業に要する経費（G）以内とすること。ただし、基金（資金）額の計（D）から対象事業に要する経費の計（H）を差し引いて得た額及び期末基金（資金）額（I）から次年度の第1及び第2四半期分の対象事業に要する経費（G）を差し引いて得た額が1頭当たりの取り崩し額に満たない場合は、この限りではない。
なお、期首基金（資金）額（A）が、対象事業に要する経費の計（H）を上回る場合は、その差額を備考欄に記入すること。